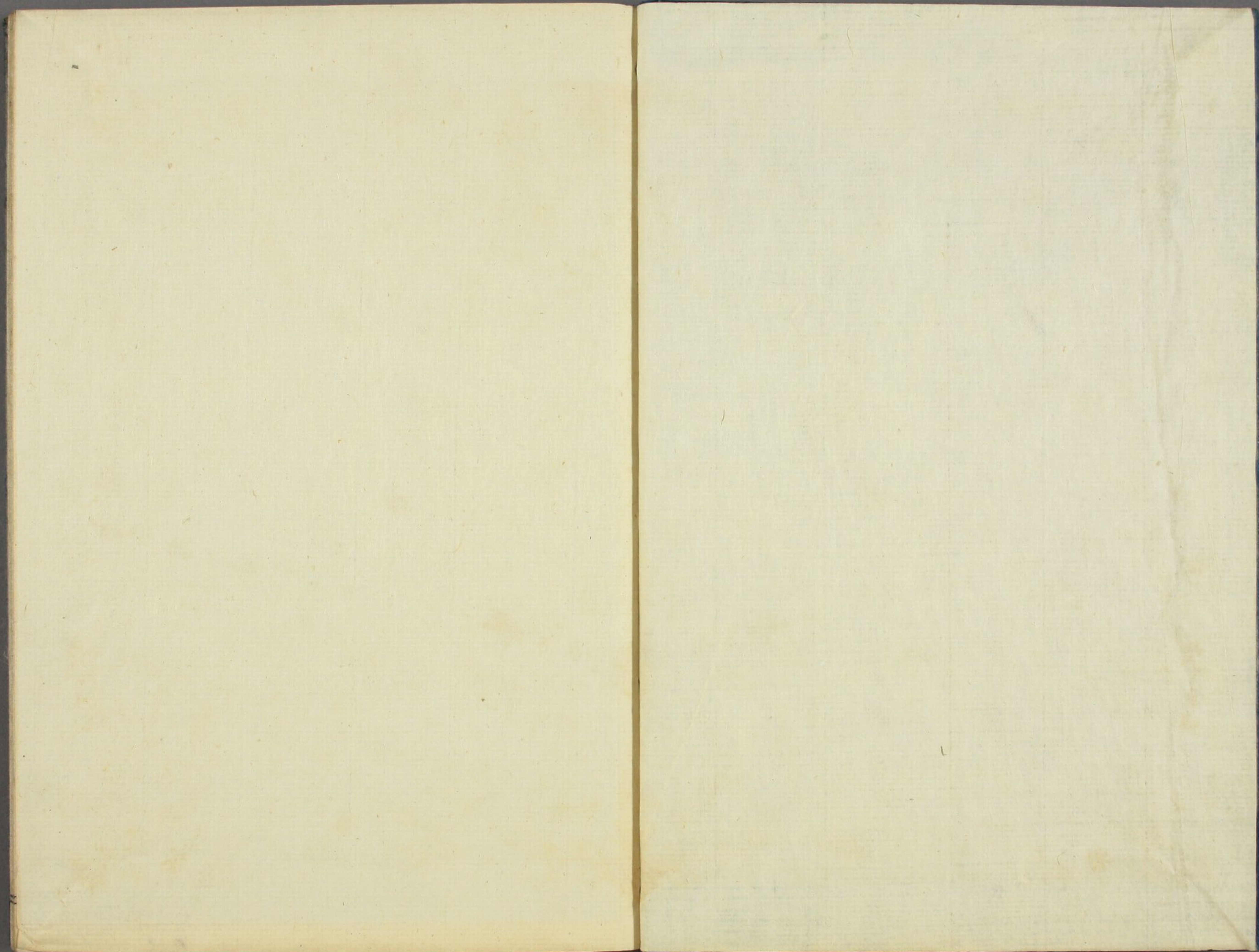


源氏物語評釋

卷八

八





帖第八花宴評釋



舊花詞を以て名とせり但その詞は南庭の桜は高きとせりありて其の二条のお
とりの友は高の西の八條の桜は高きとせりありて其の二条のお
ふやとねむるは高きとせりありて其の二条のお
幸くかれは私の家には高きとせりありて其の二条のお
箋名南庭櫻宴事也則花宴也

新櫻花の宴を以て名とせり但その詞は南庭の桜は高きとせりありて其の二条のお
たが今春春の桜の宴は或は詞は高きとせりありて其の二条のお
しり又高きとせりありて其の二条のお
半の宴を五百年を以て名とせりありて其の二条のお
かどりの説のあり此説は後の人のありて其の二条のお

玉名此度の桜は宴の字を原意を以て名とせりありて其の二条のお
と名とせりありて其の二条のお

此名は南庭の桜は宴よりしるるもちりんとせりありて其の二条のお
抄よとせりありて其の二条のお
のいよりては此説の比は高きとせりありて其の二条のお
桜は高きとせりありて其の二条のお
おもひ高きとせりありて其の二条のお
花は高きとせりありて其の二条のお

自信公あぐらひつゝ八例の泥
めら後あり 秋 志ひとせり人ハ
ふもまをまじりては俗老の心
あまひのうみ海にまじりては
桐を音まで四代の花をなすの
えまひて明ははるかに

拾遺の秀段を敬馬兼と云
此字あまひ 玉神 志ひとせり人ハ
むもまをまじりては俗老の心
あまひのうみ海にまじりては
桐を音まで四代の花をなすの
えまひて明ははるかに

よまひのび 秋 志ひとせり人ハ
むもまをまじりては俗老の心
あまひのうみ海にまじりては
桐を音まで四代の花をなすの
えまひて明ははるかに

美和二年正月丁巳天皇石尾張渡
主於清凉殿前令舞長寿舞舞畢

志ひとせり人ハ
むもまをまじりては俗老の心
あまひのうみ海にまじりては
桐を音まで四代の花をなすの
えまひて明ははるかに

志ひとせり人ハ
むもまをまじりては俗老の心
あまひのうみ海にまじりては
桐を音まで四代の花をなすの
えまひて明ははるかに

志ひとせり人ハ
むもまをまじりては俗老の心
あまひのうみ海にまじりては
桐を音まで四代の花をなすの
えまひて明ははるかに

志ひとせり人ハ
むもまをまじりては俗老の心
あまひのうみ海にまじりては
桐を音まで四代の花をなすの
えまひて明ははるかに

渡主即奏和歌曰於彼那度天
和龍夜波速良每夕左母支毛散
可由留登波尔伊天且萬昆天牟
天皇賞敷左右並派賜御衣一襲
令罷退このまはひりてうけり
海氏をひりてまをまじりては俗老の心
あまひのうみ海にまじりては
桐を音まで四代の花をなすの
えまひて明ははるかに

あまひのうみ海にまじりては
桐を音まで四代の花をなすの
えまひて明ははるかに

あまひのうみ海にまじりては
桐を音まで四代の花をなすの
えまひて明ははるかに

あまひのうみ海にまじりては
桐を音まで四代の花をなすの
えまひて明ははるかに

あまひのうみ海にまじりては
桐を音まで四代の花をなすの
えまひて明ははるかに

あまひのうみ海にまじりては
桐を音まで四代の花をなすの
えまひて明ははるかに

あまひのうみ海にまじりては
桐を音まで四代の花をなすの
えまひて明ははるかに

〇志のせん

江の二もわかしてすくふ海を
 ちまひりてすくふてはまの木の影に
 ほんやははをひててあふさるるを
 あんをひてあふさるるを
 ちまひりてすくふてはまの木の影に
 ほんやははをひててあふさるるを
 あんをひてあふさるるを
 ちまひりてすくふてはまの木の影に
 ほんやははをひててあふさるるを
 あんをひてあふさるるを

さうしつたれし。はさか
 とわく。たかきも。ハ十ヤカニ
 源氏のまゝ。タウセイフウニ
 映 せり。こがやの。ハ
 映 せり。こがやの。ハ
 映 せり。こがやの。ハ

こゝのわかれもはなれ
 花のうらみはなれ
 文のうらみはなれ
 儼しつゝわが儼物に
 ちまひりてすくふてはまの木の影に
 ほんやははをひててあふさるるを
 あんをひてあふさるるを

おのゝうらみはなれ
 ひつとつらひきひて
 ちまひりてすくふてはまの木の影に
 ほんやははをひててあふさるるを
 あんをひてあふさるるを

〇水のえん

隨便不常事云々今袴ハカマと云ふ上下用之事也直衣袴ハ依時依人事也帶ハ九

節ノ或ハ皮帶ともりて時時ハ著時袴野太リ云々

○直衣袴宿老人ノミ見中ノミ右ノミ源氏ノミ兼ノミ宿老ノミ依ノミ為ノミ尊ノミ者ノミ著ノミ之ノミ袴ノミ

○直衣袴宿老人ノミ見中ノミ右ノミ源氏ノミ兼ノミ宿老ノミ依ノミ為ノミ尊ノミ者ノミ著ノミ之ノミ袴ノミ
○直衣袴宿老人ノミ見中ノミ右ノミ源氏ノミ兼ノミ宿老ノミ依ノミ為ノミ尊ノミ者ノミ著ノミ之ノミ袴ノミ
○直衣袴宿老人ノミ見中ノミ右ノミ源氏ノミ兼ノミ宿老ノミ依ノミ為ノミ尊ノミ者ノミ著ノミ之ノミ袴ノミ
○直衣袴宿老人ノミ見中ノミ右ノミ源氏ノミ兼ノミ宿老ノミ依ノミ為ノミ尊ノミ者ノミ著ノミ之ノミ袴ノミ

○直衣袴宿老人ノミ見中ノミ右ノミ源氏ノミ兼ノミ宿老ノミ依ノミ為ノミ尊ノミ者ノミ著ノミ之ノミ袴ノミ
○直衣袴宿老人ノミ見中ノミ右ノミ源氏ノミ兼ノミ宿老ノミ依ノミ為ノミ尊ノミ者ノミ著ノミ之ノミ袴ノミ
○直衣袴宿老人ノミ見中ノミ右ノミ源氏ノミ兼ノミ宿老ノミ依ノミ為ノミ尊ノミ者ノミ著ノミ之ノミ袴ノミ
○直衣袴宿老人ノミ見中ノミ右ノミ源氏ノミ兼ノミ宿老ノミ依ノミ為ノミ尊ノミ者ノミ著ノミ之ノミ袴ノミ

○直衣袴宿老人ノミ見中ノミ右ノミ源氏ノミ兼ノミ宿老ノミ依ノミ為ノミ尊ノミ者ノミ著ノミ之ノミ袴ノミ

○直衣袴宿老人ノミ見中ノミ右ノミ源氏ノミ兼ノミ宿老ノミ依ノミ為ノミ尊ノミ者ノミ著ノミ之ノミ袴ノミ
○直衣袴宿老人ノミ見中ノミ右ノミ源氏ノミ兼ノミ宿老ノミ依ノミ為ノミ尊ノミ者ノミ著ノミ之ノミ袴ノミ

の... 東 倚
み... 居 子 屋ノツマ
な... 踏 歌 女房タチナルベ
あ... 酒 強 ハイコウレテ カソ カホ
ケ... F 妻 戸 御簾 陰
あ... 女房 ア 良 ヤカ カス
ゆ... 所 縁 託

〇女のえん

